

実践的な挑戦をし、将来のキャリア形成に繋げる ～造園デザインコンクールへの挑戦～

造園緑化コース 今中 琢斗
(指導教員)：新井 俊宏

1. はじめに

学内での学びに留まらず、実践的な挑戦とした。造園デザインコンクールへの応募をして、計画力の表現技術・提案力を身に付けたいと考えました。

2. 愛知県造園デザインコンクール 公園部門

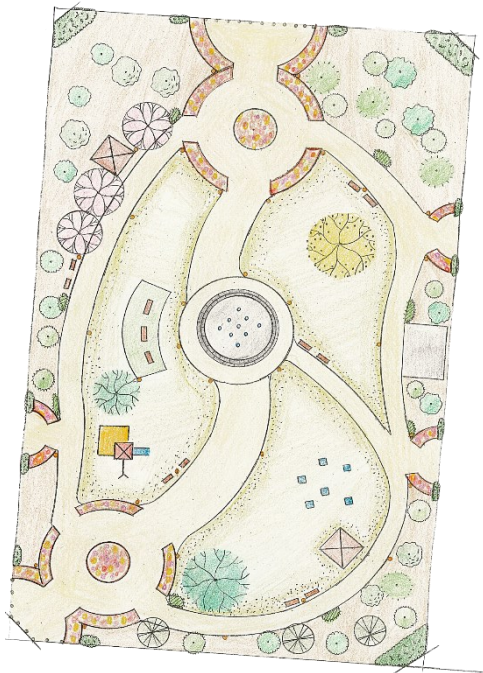


図-1 公園平面図

応募手順は、設計条件→事例調査→
コンセプトの決定→ゾーニング→設計→
植栽選定→パース作成→ポスター作成

コンセプトは「みんなの交差点」とした。この街区公園は、子供から高齢者までが自然に集い、ともに過ごせる交流の場を目指して計画した。公園の中心には、現代的な噴水、水遊びスペースを配置し、周囲には、四季の移ろいを感じながら散策できる回遊動線を形成し、用途が異なる世代が共存できるようにエリア同士は、適切な距離と見通しを確保し、安心して利用できる空間構成とした。

この公園が、地域の人々の生活に寄り添い、日常の交流・季節の体験、健康づくりが自然に生まれる場所となることを目指し計画した。

花壇ゾーンは、地域交流を、目的とした空間として計画した。地域住民や福祉施設、子供たちが花壇管理に関わることで想定し季節の花を通じた世代間交流を促すことで、公園への愛着と地域コミュニティの形成を繋げるように、作成しました。(図-2)

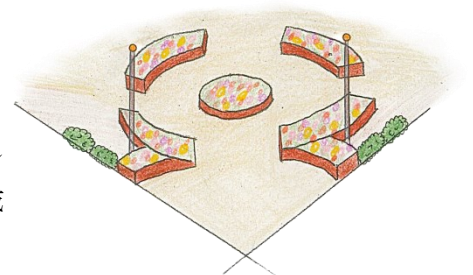


図-2 メイン花壇パース

3. 全国デザインコンクール

応募までの手順は愛知県デザインコンクールの時と同様である。

コンセプトは、「bicycle shelter with identity」とした。この庭では、住む人のライフスタイルを象徴する「自転車」をテーマとして、計画した。外観には乱張り石材で街並みに調和する開放的な表情を構築。主庭に進むと静寂と落ち着きを感じる和の空間が広がり、日常から解き放たれる趣のある庭が迎えている設計。

この空間において、自転車は単なる移動手段ではなく、暮らしそのものを彩り、個人の個性＝identity を表現しているデザインとしました。

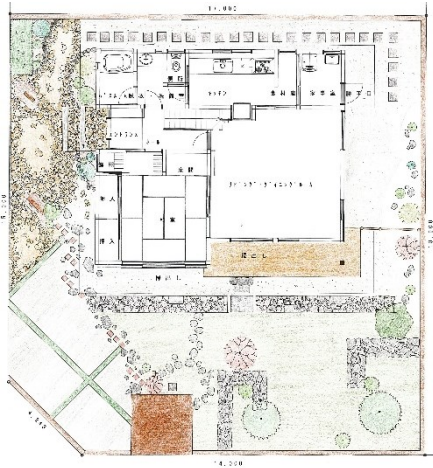


図-3 平面図

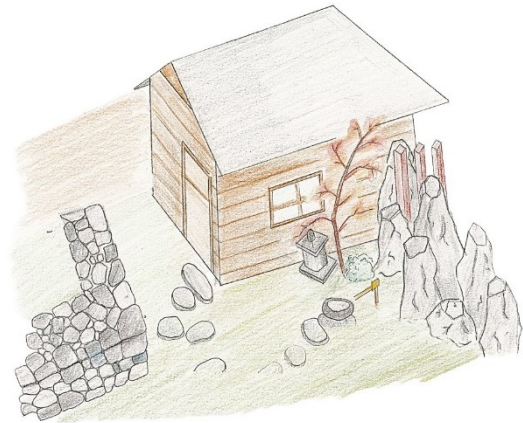


図-4 趣味の拠点パース

趣味の拠点(bicycle house)空間は、単なる自転車小屋としてではなく、暮らしの中における自転車の存在そのものを象徴する場として位置づけており、自転車を移動手段ではなく、日常を楽しむ、生活を彩り、住まい手の価値観や個性、すなわち identity を表現する存在として捉え、この場所を庭の中心に捉えることで、庭全体が住まい手のライフスタイルを映し出す舞台となるようにデザインした。

4. まとめ

コンクールへの応募を通じて、公共空間と私的空間という異なるスケールの空間設計対象とし、それぞれにおいて人の行動や価値観がどのように空間として表現され得るのかを明らかにすることを目的とした。

本制作を通して、空間設計において重要なのは形態や意匠の操作に留まらず、人の行動、時間の流れ、価値観を読み取り、それらを空間として構造化することであることが示された。公共空間と私的空間という異なるスケールを横断して設計を行った本研究は、造園・空間デザインにおける志向の幅を広げるとともに、今後の設計実施における基盤を得る機会になった。